

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム菜の花の家
（ユニット名）	花の家
所在地 （県・市町村名）	長崎県佐世保市三川内町308-6
記入者名 （管理者）	満屋喜代子
記入日	平成 20 年 9 月 18 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	地域内の他の町内会との交流は不十分であり民生委員さんや連合町内会との結びつきを深めることが課題と思う。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の老人会へは当ホームを利用しての親睦会や入居者とのふれあいを呼びかけているが実現には至っていない。ホーム行事へは近隣の参加を頂いているが限定した参加者であるので今後は多くの方々の参加を頂けるように工夫していきたい。	○	この地域は65才以上の高齢者が30%を超えており、その中には独居の方もおられるので入居者と地域の高齢者の方々との交流を図るよう努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行うことにより介護の意義やサービスの質の向上等の理解を深めている。問題点に対する改善策を立て実施するが再発防止の取り組みが充分ではない。	○	自己評価・外部評価において改善すべき点が見い出された場合は職員が共通認識を持ち問題点を洗い出しで改善に結び付けたい。当然、再発防止の重要性を職員同士が共有して介護に取りくんで行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームの現状や現状の問題点を報告し、意見交換で得た事柄を謙虚に受け止めサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議メンバーである包括支援センターの職員には市とのパイプ役を担って頂いているが、この1年の会議で議題に上げられた「市への協力願い」が十分に伝わっていない。1ヶ月に1回程度は市・長寿社会課を訪問し世間話を交えながら指導を仰いでいる。	○	サービスの質の向上をめざし、積極的に行政と行き来できる関係を築きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は折に触れ権利や擁護等の情報を入手し、それなりの実行は行なっているが一般職員への指導がうまくいかないこともあり浸透が薄い。	○	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を多く持つよう努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待や言葉による虐待は普段から指導し職員も理解して介護に従事している。今後とも、虐待について真摯に意見を出し合いホームにおいて虐待がなきよう徹底した対策で防止に取り組んで行きたい。	○	高齢者虐待防止関連法について職員一同が学ぶ機会を定期的に設け知識を深め行動に活かすよう努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の条文について、親切丁寧に説明を行い理解を得るようにしている。条文の言葉の意味や疑問点についての質問にはわかりやすく説明を加え理解と納得を頂くように努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の態度や言葉からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。利用者の不安、意見などは各ユニットで話し合いを行い、特定の職員の中に埋もれないようにしている。また、ご家族からの苦情・ご意見は運営推進者会議やホーム会等で報告・協議して善処を図るようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方がホームに来られる折に報告を心がけ、金銭管理については少なくとも月1回はご家族に書面にて報告している。なかなか来られない家族に対しては電話や手紙、パソコンメールなどで様子を知らせている。月2回程度は「菜の花だより」を発行しご家族に閲覧している。職員が変わるごとに職員全員を写真入りの菜の花便りでご家族に配布している、	○	写真掲載を主にしていた「菜の花だより」を、入居者の暮らしぶりやご家族からの投稿の掲載を行ないたい。家族会の中で議題に取上げ募集中だが、なかなか集まらず対策を考えないといけないと思っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関横に「相談ご意見箱」を設置してご家族の意見等を聴くようにしている。また、日頃よりご家族から職員に気軽に話しかけて頂けるように職員の勤務態度などについて指導している。気付いた点はホーム会議の中で話し合い改善に取り組んでいる。	○	玄関横に「相談ご意見箱」を設置してご家族の意見等を聴くようにしている。しかし、書面にての苦情やご意見は出しづらいのか、意見等が入っていない。利用者・ご家族が職員に対して不満や苦情を訴えることに抵抗を感じさせないような配慮を続けて行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期ではあるが個人面談を行い職員の意見や提案を聴く機会を設けている。その中で職員が持つ不安や悩み等について解決するよう取り組みを行なっている。	○	「運営規程」の内容は変えることができないと思っている職員が多いのでホーム会などで「問題点は変えるのが当たり前です」。規程と言えど変えるべきは変えると引き続き指導を行なう。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者を支援すべくローテーションを組んでいる。突発的な職員不足による入居者へのサービス低下を招かぬよう人員の確保・調整には充分取り組んでいる。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定化しているが、やむを得ず年に数回最小限の職員の異動を行なっている。離職は本人の都合によるので仕方ないことではあるが常に募集をかけ職員の確保に努めている。	○	離職者が出た場合はやむを得ずユニット間の移動を行なうが、誕生会以外の行事は2ユニット合同で行なっているため職員同士はいい関係を持続している。むしろ問題は給与の低さにある場合も多い。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には職員の実力・経験等を考慮してなるべく多くの職員が受講できるように促進している。又、それらの研修報告は報告書提出を義務付け毎月のホーム会議で発表してもらっている。またホーム内教育も行なっている。	○	教育は介護にとって最も大切なことであり、これまで以上にホーム内外の教育研修を行う。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月のグループホームブロック協議会へは必ず出席し同業者との交流を図っている。ただし、同業者間の勉強会や相互訪問等の活動はは充分とは言えない。	○	他事業所との交流の機会を働きかけ、まずは相互訪問により相互で質の向上を目指して行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ホームの建物自体はストレスを軽減できるような環境仕様で建築されており職員も住空間には満足しているようだ。しかし、職員が個々に抱える内面の問題についての改善や工夫は課題でもある。悩み等を聴く機会を設けているが充分とは言えない。	○	職員の心の内面を知ることには限界があるが、ストレス軽減に向けて話し合いの場や親睦会を設けて心を開いてもらうように努める。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の職員の経験・実績・能力・勤務状況を把握し、チームワークによる介護に努めている。各自が義務感ではなく日々問題点を持ちそして改善へとつなぎ向上心を持つようにとの思いはあるが、充分とは言えない。	○	個々の能力を発揮できる責任ある仕事を任せることにより各自の質の向上を図り、それに伴う報酬を考えていきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者が直接訴えられたことはよく聴き納得されるまで話をしている。サービスが入居者にこころよく受け入れられるような関係作りに努めている。	○	訴えられずにおられる入居者いると思うので個別に話す機会の場をもっと増やして行きたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の要望・意見等がないか尋ねている。ご家族の不安を解消するために、ホームとして問題点はないか、それら問題点をどのように解決していくか等、職員同士が問題を共有しどのようなサービスが出来るかの取り組みを行なっている。	○	職員が「問題を認識する個人差」があるので「問題を問題点とする」意識付けや「どのように解決するか」のスキルアップに努めて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者が持っておられる問題点を見極め、その方に対して何が大切な支援であるかをつかみケアプランに組むようにしている。入居者にとってよりよいサービスができるよう努めている。ケア内容についてご家族へは充分説明し信頼関係を築いている。	○	申し送り日誌に記録することになっているが、忙しさに紛れ記録をとらないときがある。改善していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者ご本人が以前から慣れ親しんできた調度品・趣味のもの・化粧品・写真・絵画などを自室の置き、いままでの家庭や環境と同じ雰囲気の中で過ごして頂けるようにしている、		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方々より学ばせていただくことがたくさんある。その方が得意としていること(絵画・料理・音楽・歌など)には教えてもらい、また手伝って頂き共に喜びを分かち合えるようにしている。	○	入居者の方々は人生の先輩として尊敬の念を抱き、入居者の知恵や言葉遣い、礼などを学びながら一緒に過ごしている意識を持って介護サービスを進めていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者が喜びとされていること、時には悲しいこと淋しいことをご家族と共有して、入居者・ご家族・職員と一緒に喜怒哀楽を共にしたサービスを提供している。ご家族とホームとの関係はうまくいっているが入居者と職員間では満足するまでには至っていない・	○	入居者の喜びは共に笑顔で対応できるが、入居者の悲しみ・悩み・不安をどのように解消していけるかご家族と共有しご家族と一緒に入居者を支えていく姿勢を持ちたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に時間を過ごす事を勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら良い関係の継続に努めている。また、誕生会では常にご家族と連絡を取り合い出来るだけご家族と一緒に祝う場を設けている。	○	ご家族の行事参加や誕生会などの参加が限られたご家族が多く、また年1回の誕生会にご家族が参加しやすい日程を調整しているが遠方の方は難しいのが現状である。課題はたくさんあるが家族会の支援が欲しい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の希望される馴染みの場所や催し物などに年2回案内している。入居者の友人の皆さんには面会に来て頂いたり、ご家族との外出支援に努めている。	○	ご家族へお願いしている「ご自宅や馴染みの場所への外出」は限られた方が多い。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士が仲良く生活していけるよう職員が間に入りながら、日々楽しく過ごして頂けるように支援している。	○	お一人で自分の部屋におられる方には、必ず声かけして、リビング等で他の入居者の方々と一緒に過ごして頂けるようにしているが充分とはいえないのでゲームや歌等で喜ばれる場をつくりお誘いをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	開設して5年目を迎える中、過去の退居者5名の内2名は死去。3人は看護が必要である。現実的には退所者やそのご家族との関係を保つのは困難である		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が「買物に行きたい」、「お風呂に入りたい」、「コーヒーが飲みたい」、「散歩に行きたい」・・・等の希望を言われたときにはその都度支援できるように努めている。	○	職員の手が離せないときなど希望に沿えないことがあり、その場合は、「ちょっと待って下さいね」などで納得頂いているが、入居者が不満に思われる場合も多い。課題でもある。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に馴染みのある物をご家族にお願いして持ってきて頂いたり、できるだけ本人の生活環境に合わせて穏やかに生活できるよう支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者と関わる時間をできるだけ多くとり、心や体の小さな変化にも気をつけ、朝食後のバイタルチェックの状況や日常の精神的不安などを専用の送りノートに記録して常に状況が観察ができるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らせるよう、医師の意見を踏まえ、本人・ご家族と話し合い、それぞれの意見等を取り入れたケアプランを作っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期計画・短期計画に基づきケアを行なっている。新たに発生した状況変化には緊急に話し合いケアプランを見直し修正して実情に適したケアを行なっている。対応できない変化が生じた場合、直ちにホーム内で話し合い家族と打合せを行ない介護計画の見直し修正を行なっている。必要に応じて医師の意見を伺っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での変化や様子は個別に記録をとっている。気づきや工夫は申し送りノートに記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に沿ってその必要な支援を行なっている。遠方からのご家族来訪の際は当ホームでの宿泊できる旨を伝えている。時々、宿泊を利用されておられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、消防、近隣の小中学校、近隣の方々からご協力や支援を頂いている。大変感謝している。	○	ホームから地域の方々への支援はどういうものがあるのか関係先に尋ねたが「特にありません。入居者の方々の安全第一をお願いします」との回答。一斉清掃や介護教室また行事への招待のみの地域支援では充分とは言えないが模索中である。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じてリハビリに行かれたり、訪問理美容サービスを利用してもらっている。他のサービス事業者との話し合いは「グループホームブロック会議(隔月開催)」のみ。他の事業所ケアマネジャーとの交流は「ピア花水木」の梅澤和子さん(運営推進者会議メンバー)にはいつも相談にのって頂いており、当ホームのサービス支援に生かしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員は運営推進者会議メンバーであり、3ヶ月に1回会議の場で意見交換をしているがセンターそのものの協働は今のところないに等しい。	○	運営推進委員会を通して協働できるようにしていければと思う。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。必要に応じて訪問診察に来て頂くことも多くあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。歯科医は約50%近く訪問治療をして頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師には日々の入居者の状態を伝え診断・治療・薬処方を受けている。進行状況によっては医師に相談して処方の変更等を行なっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医師・看護職員・歯科医とは常に連絡をとり適切に対応して頂いている。その経過・結果はご家族へ報告しよりよい健康管理と医療支援を行なっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	普段から医師や看護職員との情報交換・連携は適切にできており入退院のときにも病院との連携はスムーズにしている。入居者が入院した場合には職員は出来る限り見舞いに行き、安心して頂けるように心掛けています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した入居者や終末期のあり方については常日頃ホーム内で検討しているが方向性を定められずにいる。従って、全職員での共有はしていない。重度化や終末期などときにはご家族や医師へ相談し出来る限りの支援をしている。	○	重度や終末期のあり方については入居者一人ひとりの人生と家族の関係もあり当ホームの状況も考え簡単に言えることではなく重要な課題と思う。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームは介護の場であり、医療が深く関係する重度や終末期の入居者には対応が困難と言わざるをえない。終末期の介護について「ホーム指針(案)」は作成しているが表には出せないでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人やご家族から、本人を自宅や別の居所へ移り住ませたいという希望があったときには、ご家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、その意向を尊重し、住み替えを支援している。その方に関する情報提供は充分に行なっている。	○	今までに5名の方が退所(内2名は入院後に死去)されましたが退所後の情報交換は積極的には行なっていない。どうあるべきか検討中。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄・失禁等の声かけはトーンをおとしたりしてプライバシーの確保が出来ない場所で行なっている。記録は入居者や外部の方には目に触れない場所に保管している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者が希望や要望を言い出せるような環境づくりを行なっている。自己決定や誘導しないように心がけ入居者の心を聴くよう努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごされたりフロアで過ごされたり、その方の日頃の過ごし方を尊重し、のびのびと生活できるよう支援している。	○	入居者のわがままにどのように対応して満足を得て頂くかが課題でもある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月訪問の理美容師さん(ビューティーヘルパー)や近所の理容院に来てもらって散髪、髪型、パーマなど希望に沿って支援している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を聴き、料理が得意の方には料理の手伝いを頂き、食事は入居者・職員が同じ席でとっている。後片付けも出来る方にはやって頂いている。料理をしたくない方には、ツワの皮むき、柿の皮むきなどを入居者同士楽しくやってもらい喜んで頂いている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は誕生会、お正月、クリスマス会等で差し上げている。飲み物はコーヒー・豆乳・ジュースなどが多く、おやつにはお菓子の他に季節の果物を出し、季節の移り変わりを感じて頂いている。一人ひとりの体調や健康状態に合わせて品目を変えるように努めている。	○	日常的にはお一人おひとりが満足されるものは出せていないが入居者の体や心の状況に合わせて工夫をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の時間を記録にとり、個別のパターンを把握している。その時間には声かけしている。用足し後の陰洗はできるだけ行なうようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の入浴希望時間を聴き、その時間に入浴をお勧めしている。	○	お風呂が嫌いな方もあり、どのように入浴して頂くか苦慮することがよくある。清潔は健康に通じるので入浴が嫌いな方にどのように入浴させるかが課題でもある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の休息時時間や入眠時間は違うので、無理に就寝を促さずその方に合った就寝時間を尊重している。また人の気配がする場所で休息されるのを好まれる方には「ソファで休んでください」と声かけしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が喜ばれることをいつも考え、その方々が気に入るようなこと(お絵かき、手芸・畑仕事等)を職員と入居者が一緒にしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上で支障のない程度のお金は持っておる方もあり買い物など楽しまれている。普通はホーム預かりとしているが、花見、夏祭、外出等でご自分のお金を使って頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調が良いときは本人の意思を尊重しながら積極的に散歩や買い物に出掛けるようにしている。天候が良いときは近郊への散歩や野草採りを楽しまれ持ち帰られた野草花は部屋やリビングに飾られている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事の中に本人の希望地への外出支援(年2回)を組み入れている。できるだけ希望に沿うよう天候、体調を考えて外出支援を行なっている。散歩などは、必ず他の入居者と一グループで出掛けられるように支援を行っている。	○	ご家族との外出が少ないので家族会の協力を得たい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はリビングから直接かけられる。入居者のご家族との電話では職員が取り次ぎしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	季節の行事の際、案内状を出し電話をしてお誘いしている。ご家族もちろん友人の皆さんも来訪されている。	○	来訪者が限られた方が多く、1年間誰も来られない入居者の方もあり、どのように家族や馴染みの人たちの訪問を支援していくか課題である。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを目指しているが、入居者本人が危険な場合、最後家族の同意をとり小限の拘束を行なっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	普段は入居者の安全の為、家族の了解を得て玄関はオートロックを採用している。入居者が外出を希望されるときは職員が付き添い自由に外に出ることができるようになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室にはライター・針・鋏など危険なものは置かないことを決めている。居室を訪問する際に確認を行っている。トイレやオムツ交換のときは必ず他人の目の触れないようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、刃物等の保管場所、取り扱い方法を適切に取り決め確実にやっている。特に包丁は色分けや本数確認・保管の徹底をしている。入居者の中にはハサミを自己管理されている方もいる。使用するときや保管場所など見守りを行なっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	廊下通路には物を置かない。手摺にはものを下げない。誤薬防止の為の決まりの実践。火災予防のため火を付けているときはそこを離れない。など決まりを周知徹底している。万一緊急事態が発生した場合の処置は日頃から徹底している。事故発生の場合は処置後に報告にまとめ原因の究明・再発防止に取り組んでいる。ヒヤリハットの報告もホーム会で話し合いを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時などの対応マニュアルは作成しているが、その機能は十分に生かされているとは言えない。備えはしているが急変時になると平常心ではなくなるのでいかに対応できるかが課題。応急手当やその訓練の必要性を痛感しているが出来ずにいることを反省。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間の防火訓練は半年に一回の割合で訓練を行っているが夜間訓練が出来ていない。地震・水害の災害についての対処方法も手薄ではある。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒・ケガ等、入居者が起こすかもしれないリスクについてご家族には充分説明し理解を得ている。あるがままで自由な日々の生活に心がけている。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体の変化や異常に気づいたら速やかに病院に連絡し診断を受ける。又、日頃よりバイタルチェックを行うと共に変化や異常の記録を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が使用している薬の目的、用法・用量については理解している。副作用についても必ず説明文を読んで理解している。入居者の服薬については医師の指示を守り支援している。入居者一人ひとりの薬の説明書を個人記録に綴じスタッフがいつでも見れるようにしている。薬に変更があった時点で綴じ直しを行っている。又、誤飲がないようにダブルチェックを行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給に心がけ、排便が長く続く場合は病院受診の支援を行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの講習を受け、それを生かして食後の歯磨き、義歯の清潔管理、うがいを行なっている。定期的に歯科医に見て頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が済んだ後、摂取量を確認し記録している。水分摂取量の少ない方には声掛けをしたり、好みのジュース等を差し上げている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策のマニュアルは作成済である。感染症の季節には勉強会を行っている。インフルエンザ予防接種は入居者・職員必ず実施。万をを考えて感染症処置セットを常備している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は熱湯消毒や漂白し、冷蔵冷凍庫内の清潔清掃、食材の残りの点検を頻繁に行っている。魚や肉類は2日分ずつ新鮮なものを店から買い求め、冷凍肉と野菜は2日分をまとめて生協などから購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はスロープ手すりを設け駐車場は14台分を確保。庭には家庭菜園を設けている。玄関回りには植栽や慣用植物を配置している。皆さんが気軽に訪ねてくれる工夫をしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に共有空間の清潔に心がけている。食卓では入居者一人ひとりに専用のランチョマットを椅子には名前いりのマットがあり楽しく食事が出来るようにしている。テーブルには季節の草花を飾りリビングには観葉植物を配置し休息時にはクラシックや童謡の音楽を流し癒しの空間を演出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは並び替えが可能なソファを置き誰でも自由に座ることができる。また気の合った入居者同士が思い思いに過ごせるように談話室の開放、食卓の開放を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の飾りや写真、ダンス・鏡・テレビは入居者やご家族の自由になっている。それぞれの方が自宅より持ち込まれた物が殆どで使い慣れたものや好みの絵・写真・暦等を飾っておられる。居室の出入は基本的に入居者同士が自由に出入りできるようにしてあるが、他の入居者が勝手に入らぬよう見守っている。(内側外側から鍵をかけることが出来る)	○	畳部屋8室の内、2室を無垢杉材の床にしたい。(尿臭や畳の凹みが生じているので)。ただ、費用がかかるので手を入れるまでには至っていない。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	壁の作りに工夫がされていて加齢臭や嫌な臭いは直ぐ消えるようになっている。居室とリビングには温度計を設置しており入居者の体の実状に合わせ窓の開閉、冷暖房の気温設定を調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの床材は「うづくりの床」で素足への心地よい刺激になり滑り止めの役割を果たしている。フローアの必要と思われる箇所には手すりを設けトイレや浴室にも手すりを多く設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の清掃・掃除機かけ・入浴・配膳下膳は自立している方は本人で行なわせている。料理の手伝いが出来る方には時々行なって頂いている。入居者同士のトラブルには職員が間に入り緩和。入居者の方の味付けは美味。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に家庭菜園があり、野菜・花などを栽培している。種まき・水やり・草取り・収穫などを入居者と一緒に楽しみながらやっている。また今は利用されていないがゲートボール場がある。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭菜園の種植え・草取り・収穫は自然に親しむ点で効果があっている。特に、収穫は入居者の方々にたいへん喜んで頂いているようだ。入居者の要望に応じた「年2回の希望地見学」は喜ばれている